

1. こんばんは。岩本です。いまの日本政治の混迷の原因は何か。もちろんそれは、安倍首相です。ただ、もう少し広い視野から見れば、人間の能力の限界を無視し、神や天使によってしか上手く運用することのできない政治の仕組みを作り上げてしまったことにあるように思います。かつてフランスの思想家ジャン・ジャック・ルソーが書いたように、政治制度は、人間の能力の限界をわきまえたものでなければなりません。特に、権力者に決して使いやすい統治の道具を与えてはなりません。これは、近代立憲主義のベースにある暗黙の前提です。
2. 憲法 36 条は拷問を絶対的に禁止しています。その理由は何か。時限爆弾を仕掛けた場所を自白させるためには、最後の手段としてテロリストを拷問することも許されるのではないか。こう考える人もいるかもしれません。しかし、権力者にこうした〈例外的状況〉において一度拷問を許すと、間違いなく、拷問は統治の制度の中に組み込まれ、適用の範囲は拡大され、拷問は日常化します。なぜなら、究極の道具ほど、権力者にとって便利な道具はないからです。神や天使のような善意や自制心や客観的な判断能力を備えていない人間には、拷問という道具をコントロールすることは不可能です。だから、拷問は例外なく、絶対的に禁止されるのです。
3. 民主的な制度には、簡単にことが運ばないような仕組みや手続が埋め込まれています。それは、権力者に便利な統治の道具を与えないようにするためです。国家権力が立法・行政・司法に分割されているのもそのためです。国会が衆議院と参議院に別れているのも、政府を監視するための健全な野党が必要なのもそのためです。そして、権力者によって憲法が簡単に変えられないように厳格な憲法改正手続が定められているのもそのためです。
4. 戦後長い間、政治と官僚の間には摩擦や緊張関係を生む仕組みがいくつもありました。政治家が国民受けする減税を唱えても、かつての大蔵省にはそれに抵抗する術がありました。しかし、「政治主導」や「決められる政治」といったスローガンのもとに、内閣総理大臣と官邸が政策のみならず、官僚の人事すら牛耳る政治と官僚の関係が作られてしまいました。そのなれの果てが安倍政権であり、森友問題と加計問題は、起こるべくして起こったスキャンダルといえます。意のままになる官僚制を手に入れた安倍政権が、官僚に決裁文書を改ざんさせ、公文書の偽造という犯罪行為に手を染めさせることなど朝飯前と言えるでしょう。
5. 私たち国民が戦後最大の政治的な危機の中で学ぶべきことは、権力者に使いやすい便利な統治の道具を与えてはならないということです。もちろん、非常事態において内閣総理大臣に独裁的な権力を与えるような、緊急事態条項を創設する改憲など許してはなりません。むしろ、行政の長である内閣総理大臣こそが、「国民全体の奉仕者」であり、統治の道具なのです。いまの安倍首相は、国民にとって役に立たないどころか、国民生活を破壊する危険きわまりない道具です。百害あって一利なしです。そんな役なたたない危険な道具は、お払い箱にする。それは国民の権利です。いまこそ、安倍政権の退陣を求めて国民の力を結集しましょう。日本政治の

危機を、日本政治を変革するチャンスに変えましょう。そのために、皆さん、ともに頑張りましょう。本日はどうもありがとうございました。